

若年サッカー選手のおよそ 0.4%に心臓突然死リスクあり

これまでに報告されている若年サッカー選手における心臓突然死の発生率や原因は試験参加者や調査方法が異なっていた。本研究では、英国の若年サッカー選手の心臓突然死の発生率と原因について検討した。

1996～2016年に心臓スクリーニングプログラムを受けた若年サッカー選手 11,168例（95%が男性、平均年齢 16.4 歳）が対象となった。心臓スクリーニングプログラムでは、健康についての質問票、身体検査、心電図検査、心エコー検査が行われた。その結果、42 例（0.38%）に心臓突然死と関連する心疾患がみられた。225 例（2%）には先天異常や弁異常が認められた。スクリーニング後の全死因死亡は 23 例あり、そのうち 8 例（35%）は心臓疾患による突然死で、この 8 例中 7 例（88%）は心筋症であった。心臓突然死となった選手のうち 6 例（75%）は、心臓スクリーニング結果が正常であった。スクリーニングから心臓突然死までの期間は平均 6.8 年であった。人年法により解析したところ、スクリーニングを受けた若年サッカー選手の心臓突然死発生率は、10 万人に 6.8 例となった。

今回の研究において、心臓血管スクリーニングを受けた若年サッカー選手の 0.38% に心臓突然死と関連する心臓疾患が認められた。心臓突然死の発生率は選手 10 万人に 6.8 人の割合で、大半がスクリーニングで検出されなかった心筋症によるものであった。

出典：The New England Journal of Medicine. 2018; 379(6): 524-534.